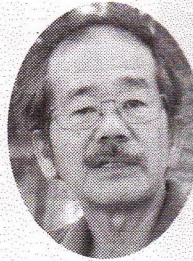


# 「政党政治を否定した平成の特高警察」



ジャーナリスト 魚住 昭氏

たか。検事総長を国会同意  
人事にすべきだと小沢さん  
が言っているという話が、  
まことしやかに流れまし  
た。それもまた、『何とし  
ても小沢を逮捕したい』と  
いう気持ちを増幅させた側

「6・30」は特捜検察が完  
敗を喫した日として歴史に  
深く刻まれるでしょう。特  
捜部の捜査そのものが完全  
に否定されたのです。  
東京地裁は6月30日付の  
証拠決定書で、検察側が証  
拠請求した元秘書3人の供  
述調書計38通のうち十数通  
を採用しませんでした。残  
った調書も却下された部分  
が多かった。「陸山会が小  
沢一郎元代表から借りた4  
億円は、小沢氏が政治活動

面があつたでしょう」  
石川氏はこのほど、秘書  
の目から見た小沢氏の素顔  
を赤裸々に描いた『悪党  
小沢一郎に仕えて』（朝日  
新聞出版）を上梓した。「悪  
党」とはいわゆる「悪人」

の中で何らかの形で蓄えた  
簿外の資金だと思つた」土  
地の購入時に4億円の定期  
預金設定を小沢氏に説明し  
了解を得た」など、小沢氏  
と秘書の共謀を示す調書は  
ことごとくはねつけられま  
した。  
鰻頭まぐろに例えれば、特捜部  
にとつて陸山会事件の「あ  
んこ」は、胆沢ダムの建設  
を巡り水谷建設元会長から  
小沢氏側に渡つたと睨んだ  
5000万円のヤミ献金捜  
査だつたはず。だが、おしい  
はずのあんこは腐つてい  
た。捜査の出発点が元会長  
のいい加減な供述だつたた  
め、皮にすぎない政治資金

ではなく、「既存の体制に  
逆らう人」という肯定的な  
意味を含んでいる。  
「小沢さんは検察組織、官  
僚組織を変えられるだけの  
力を持つている、だから、  
小沢さんが首相になったら

規正法違反で元秘書3人を  
何とか起訴しただけです。  
与党の大幹部を2回も聴  
取しながら嫌疑不十分で起  
訴できなかったのは極めて  
異例。政権交代直前に着手  
した西松建設献金事件で立  
件できなかった「失地回復」  
を図つたのでしようが、典  
型的な見込み捜査の失敗で  
した。狡猾なのは、検察審  
査会に強制起訴という尻拭  
いをさせたこと。検審の判  
断材料は全て検察が提供し  
ますから「怪しい」という  
印象を植え付けるのは容易  
です。検審のシステム不備  
を逆手に取つたのです。  
特捜部が小沢氏の失墜に

本当に実行するんじゃない  
かという漠とした不安。特  
定のだけかが事件の絵図を  
描いたのではなく、不安を  
検察の大半の人が共有し  
た、それがいろいろなところ  
で小沢逮捕へ向けて増幅

力を注いだ背景には「恐怖  
心」があります。政権中枢  
に居座り続けられると、改  
革と称して「霞が関ムラ」、  
つまり官僚機構の秩序が崩  
壊すると読んだのです。こ  
うなれば「特捜」とは呼べま  
せん。戦前のような「特高  
警察」です。露骨に政治的  
で恣意的な捜査に手を染め  
てしまったのですからね。  
小沢氏の検審公判は今秋  
に始まり、来夏にも結論が  
出ると予想されます。「オ  
レたちはなんでもやれる」  
と議会制民主主義、政党政  
治を否定した暴走検察に鉄  
槌が下るでしょう。

していった——というのが  
私の分析です。作家の佐藤  
優さんは、これを『集合的  
無意識』と呼んでいます」  
事件は「歴史的な必然だ  
つた」と言う。  
「法の存廃や改正を通じ、  
必要なものは守る、そうで  
ないものは血を流しても切  
る努力をしなければならな  
いというのが小沢さんの持  
論。戦略の一例に公明党が  
賛成している在日外国人地  
方参政権付与法案がある。  
自民党と分断し民主党が参  
院で過半数を確保するのが  
狙いですが、変革を望まな  
い勢力がいたのでしょう」  
その小沢氏に伝えたいこ  
とを尋ねると、こんな答え  
が返ってきた。

「年をとりましたね。朝が  
早すぎます（笑）。私の秘  
書時代、散歩は7時からで  
したが、今は6時じゃない  
かな。69歳になつて疲れて  
いるとは思いますが、国民  
の期待がある以上、あきら  
めないで頑張つてほしい」

構成／本誌・鳴海 崇

本誌・青木英一